

ロンドン、2018年11月5日

中国の郎溪鴻泰鋼鉄向け新型電気炉 EAF Quantum とツインレードル炉を受注

- 溶鋼1トン当たりの電力消費量を大幅に低減、操業コストとCO₂排出量を削減
- 溶解間隔の大幅な短縮化納期

プライメタルズテクノロジーは中国の鉄鋼メーカー郎溪县鴻泰鋼鉄有限公司（Langxi County Hongtai Steel Co., Ltd.：郎溪鴻泰鋼鉄）から安徽省宣城市の製鉄所向けに新型電気炉 EAF Quantum とツインレードル炉を受注しました。この電気炉は、さまざまな組成や品質のスクラップ鋼を処理できるよう設計されています。スクラップの余熱により、電気炉の消費電力は大幅に低減され、操業コスト及びCO₂排出が削減可能です。ツインレードル炉は、生産対象鋼種に対する鑄造温度を設定どおり正確に制御します。この新型電気型炉は、2019年度の第3四半期に稼働する予定です。

郎溪鴻泰鋼鉄の設立は2002年で、主に合金、ブッシングおよび圧延用ロールを含む鑄造製品を製造しています。当社は、自動スクラップヤード管理機能、自動挿入プロセス、自動ランス酸素吹き込み装置および砂充填処理を含む新型電気炉 EAF Quantum とツインレードル炉の機械・電気処理装置全般に加えてインダストリー4.0（Industry 4.0）に対応するレベル2のオートメーションを納入します。

当社が開発した新型電気炉 EAF Quantum は、実績あるシャフト炉と革新的なスクラップ挿入プロセス、高効率予熱システム、新しい傾動方式を持つ下部容器、最適化された溶解システムを装備し、出鋼間隔の大幅な短縮を実現します。従来の電気炉に比べ電力消費量が大幅に低減され、電極と酸素の消費量低減もあいまって、全体で約20%の処理コストの低減ができます。全体のCO₂排出量も従来の電気炉に比べて、粗鋼1トン当たり最大30%削減されます。



プライメタルズテクノロジーズの新型電気炉 EAF Quantum

他言語（英語・ドイツ語・中国語・ポルトガル語・ロシア語）による（プレスリリース及び資料は、以下の URL よりご覧になれます。 www.primetals.com/press/

報道関係お問い合わせ先:

プライメタルズ テクノロジーズ ジャパン株式会社 社長室（広報担当：山下）
〒733-8553 広島市西区観音新町四丁目 6-22 三菱重工業（株）広島製作所内
電話 082-291-2181

プライメタルズ テクノロジーズ 公式ツイッター: twitter.com/primetals

プライメタルズ テクノロジーズ (Primetals Technologies, Limited)は本社を英国・ロンドンに置き、金属鉄鋼産業における、エンジニアリング及びプラント建設全般の世界的リーダーかつライフサイクル・パートナーです。当社は電機、オートメーション及び環境の総合ソリューションを含めた技術、製品、サービスの一式を提供しており、鉄鋼のあらゆる分野を網羅するだけでなく、非鉄分野でも最新の圧延ソリューションをお届けします。当社は、株式会社日立製作所ならびに株式会社 IHI が資本参加している三菱日立製鉄機械と、シーメンス・グループのシーメンス VAI メタルズテクノロジーズ社の統合により発足した三菱重工のグループ会社です。出資比率は三菱日立製鉄機械が 51%、シーメンスが 49%です。従業員数は全世界で約 7,000 人。詳しくは、下記 URL より当社公式ウェブサイトをご覧ください。

公式ウェブサイト: www.primetals.com

Primetals Technologies, Limited
A joint venture of Siemens, Mitsubishi Heavy Industries and Partners
Communications
Head: Gerlinde Djumlija

Chiswick Park, Building 11, 566 Chiswick High Road
W4 5YS London
United Kingdom

Reference number: PR2018111711jp